

令和4年3月15日

定期的確認結果（公示）

大学共同利用機関法人自然科学研究機構 機構長選考会議

大学共同利用機関法人自然科学研究機構長の定期的確認結果について、大学共同利用機関法人自然科学研究機構機構長選考等規則第11条第5項の規定に基づき公表する。

記

1 定期的確認結果

令和2年度における小森機構長の業務執行について、適切に執行されていることを確認した。

2 理由

小森機構長は、「国際共同研究を通じて世界最高水準の自然科学研究を推進」及び「世界最先端の共同利用・共同研究環境を用いて大学等の研究力強化に寄与」を目標として掲げ、これらの実現に向けた各種取組を通じ、優れたリーダーシップを発揮した。

【主な取組】

- ・ 海外機関との機関・分野の枠を超えた組織的連携を通して国際連携研究の更なる発展・深化を目指す国際連携研究センターにおいて、国際的かつ先端的な共同利用・共同研究を推進支援
- ・ 新分野創成センターのプラズマバイオコンソーシアムにおいて、更なるプラズマバイオロジー分野の発展に向け、新たに東北大学が参画することで体制を強化
- ・ 研究大学コンソーシアムにおいて、各大学が抱える共通課題の解決に向け、新たに「異分野融合タスクフォース」を設置
- ・ 新たに産学連携担当理事を配置し、産学官連携推進体制を完成
- ・ 「EurekaAlert！」を活用した海外への情報発信により、これまでで最大の国内外記事掲載に繋がるなど、機構の取組み・成果の対外的な認知度向上に貢献

- ・ ライフステージにおける柔軟な就労制度の構築を進め、全職員を対象とした在宅勤務制度を整備
- ・ 最先端の研究設備を計画的に整備するため、「自然科学研究機構設備整備促進事業」として一定の額を毎年度確保し、タンパク質動態機能解析システムの導入を決定するなど研究環境を充実

国立大学法人評価委員会による令和2年度に係る業務の実績に関する評価においても、財務内容の改善に関する目標の項目においては「中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある」との評価を受け、その他の項目においては「中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」との評価を受けており、期待した業績を挙げていることが確認された。

今後も、大学共同利用機関法人である自然科学研究機構には、自然科学の新たな展開を目指した新しい学問分野の創出とその発展への積極的な取組を期待したい。